

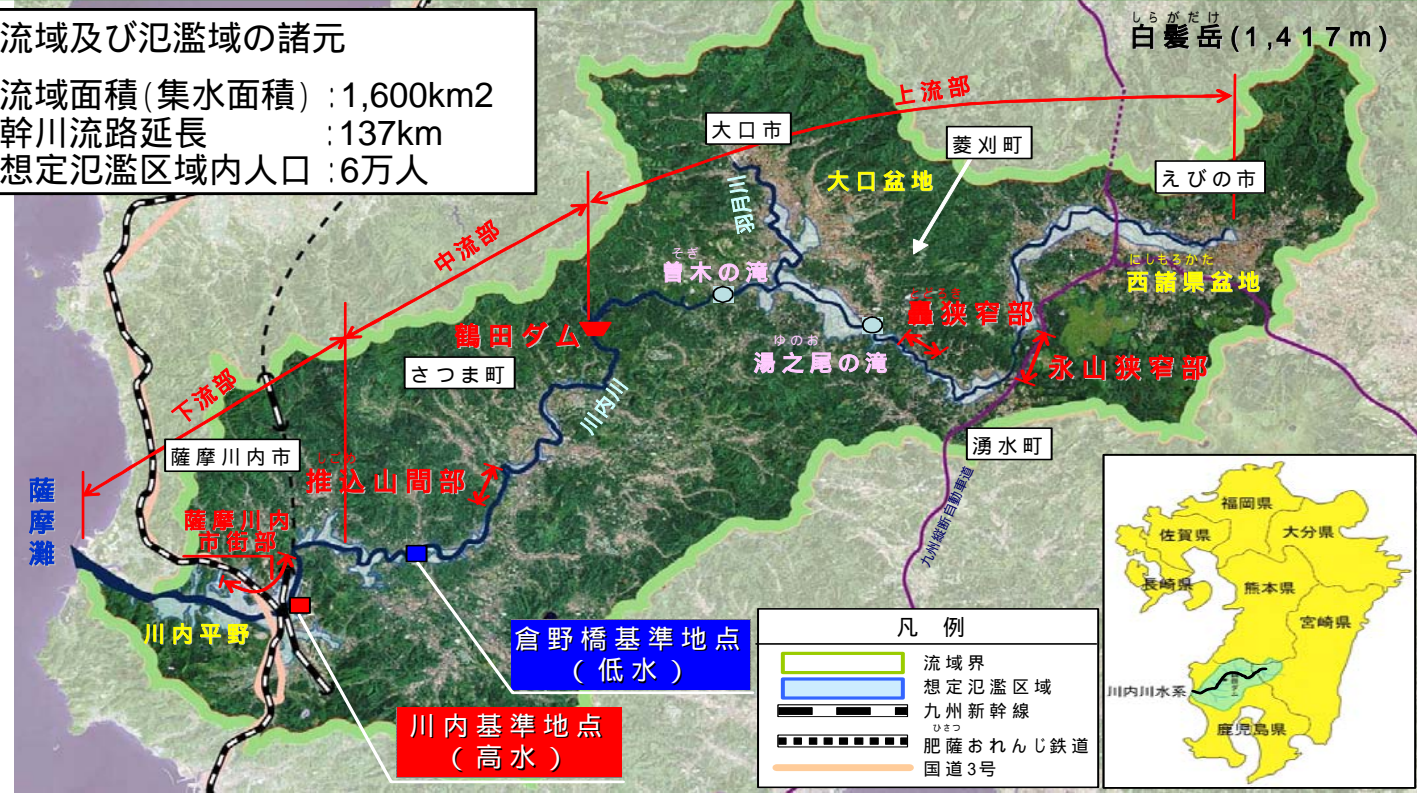
川内川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

年平均降水量は約2,800mmで全国平均約1,700mmの約1.6倍と多い。狭窄部を挟んで複数の盆地がひょうたん型に直列に繋がる地形で、盆地・平地に人口が集中し、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生。

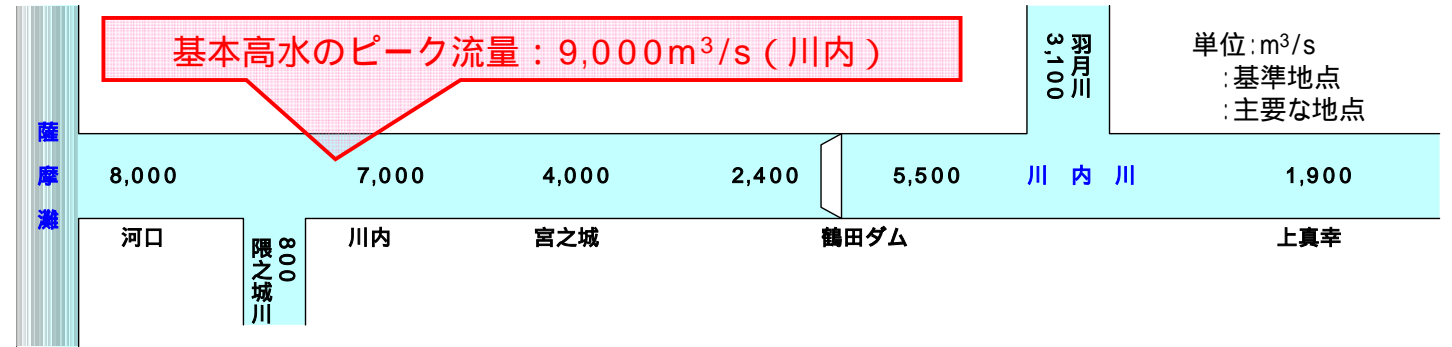
流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 1,600km²
 幹川流路延長 : 137km
 想定氾濫区域内人口 : 6万人

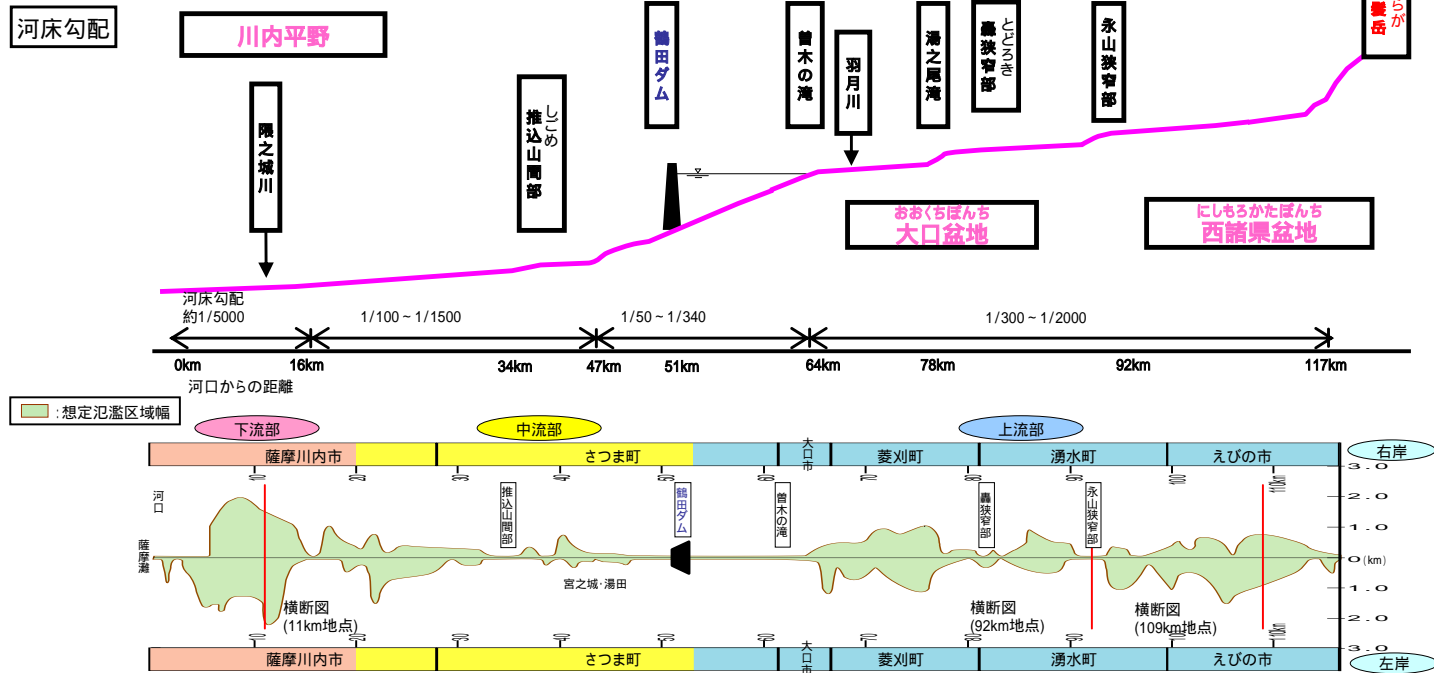


災害の発生の防止又は軽減

平成18年7月洪水で宮之城地点で既定計画の洪水流量を超過し、全川の甚大な被害が発生したため、基本高水の見直しを行い、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等も行い基本高水のピーク流量を基準地点川内で9,000m³/sと設定



狭窄部を挟んで複数の盆地がひょうたん型に直列に繋がる特異な地形であることを踏まえ、水系全体としてバランスよく治水安全度を向上させる基本高水流量と計画高水流量の差分については、上流部で遊水機能を活かした洪水調節施設、中流部で既設洪水調節施設の治水機能の向上及び新たな洪水調節施設により対応。堤防の新設、拡築、河道掘削及び分水路の整備による河積を拡大。河道や沿川の状況を踏まえ、治水対策を早期かつ効果的に進めるため、輪中堤や宅地嵩上げを実施築堤材料として使用されているシラスの特徴を踏まえ、堤防の詳細点検を進めるとともに、効果的な堤防強化対策を検討。



河川環境の整備と保全

上流部では天然記念物であるチスジノリやカワゴケソウ等が生息しており、河道掘削にあたって掘削形状や施工方法等に配慮し、保全に努める

中流部では瀬、淵やワンド、礫河原等の多様な環境が形成されており、これらの環境の保全に努める



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する
 倉野橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、概ね20m³/sとする